

## 「令和6年度 学生 FD CHAmiT 学部提案書に基づく学生への回答書」の掲載について

日本大学では、FD 活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく、平成 25 年度より、16 学部 95 学科、短期大学部 4 学科、通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生 FD や本学の教育について理解を深め、気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生 FD CHAmiT(ちゃみっと)」を開催しております。全学規模のイベントとなっており、例年、各学部等から 200 名以上の参加者を得て開催しております。令和 2 年度及び令和 3 年度においては、コロナ禍の影響により、オンライン(Zoom)開催いたしました。

第12回目となる令和6年度においては、対面方式で実施しました。「～魅力・強みの再発見～ ” 日大 ” をどう活かす？」というテーマで、コロナ禍を経て活用される ICT 技術や LMS, ChatGPT などの新しい技術が登場した今だからこそ、魅力のある授業とは何か、日本大学で学びを深めるためにどうすればいいか、大学がどのように改善すればもっと良い教育・学修活動ができるかという意見を出し合いました。それらを踏まえ、最終的に、「学部に望む授業」と「全学部に関わる項目」の 2 点に分け、学部提案書として作成しました。学生からの提案を受けて、効果的な教育改善の実現に繋がるよう、芸術学部において学生との協議の場を設け、学生・教員・職員の三者で協議した上で「学生への回答書」を作成いたしましたので、御覧いただきますようお願いいたします。

今後も芸術学部では、教育の質や改善について検討を重ね、より良い教育環境づくりに努めていきます。

(参考)

「日本大学学生 FD CHAmiT」って何？

<http://www.nihon-u.ac.jp/fd-center/fd/fd-chammit/>

以 上

## 令和6年度 学生FD CHAmmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

### 1 学生との協議の場について

実施日	実施内容																																
令和6年12月4日(水)	<p>FD CHAmmiT参加者（教職員）及び学生スタッフ、FD委員、教務課員等の計13名が対面形式にて1時間程度、改善内容に関する意見交換を実施</p> <p><b>【学部提案書作成ミーティング出席者一覧】</b></p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 10%;">教 員</td> <td style="width: 10%;">芸術学部FD委員会委員長（計1名）</td> <td style="width: 10%;">音楽学科専任教員（FD CHAmmiT参加教員1名）</td> <td style="width: 70%;"></td> </tr> <tr> <td>職 員</td> <td>教 務 課</td> <td>FD業務担当・大学院係・学籍係（計3名）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>学 部 生</td> <td>写真学科</td> <td>有志での回答書作成ミーティング参加者（計3名）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>映画学科</td> <td>FD CHAmmiT参加者（計1名）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>美術学科</td> <td>FD CHAmmiT参加者（計1名）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>演劇学科</td> <td>FD CHAmmiT参加者（計1名）</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>デザイン学科</td> <td>FD CHAmmiT参加者（計1名）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>大 学 院</td> <td>造形芸術専攻</td> <td>有志での回答書作成ミーティング参加者（計1名）</td> <td></td> </tr> </table>	教 員	芸術学部FD委員会委員長（計1名）	音楽学科専任教員（FD CHAmmiT参加教員1名）		職 員	教 務 課	FD業務担当・大学院係・学籍係（計3名）		学 部 生	写真学科	有志での回答書作成ミーティング参加者（計3名）			映画学科	FD CHAmmiT参加者（計1名）			美術学科	FD CHAmmiT参加者（計1名）			演劇学科	FD CHAmmiT参加者（計1名）			デザイン学科	FD CHAmmiT参加者（計1名）		大 学 院	造形芸術専攻	有志での回答書作成ミーティング参加者（計1名）	
教 員	芸術学部FD委員会委員長（計1名）	音楽学科専任教員（FD CHAmmiT参加教員1名）																															
職 員	教 務 課	FD業務担当・大学院係・学籍係（計3名）																															
学 部 生	写真学科	有志での回答書作成ミーティング参加者（計3名）																															
	映画学科	FD CHAmmiT参加者（計1名）																															
	美術学科	FD CHAmmiT参加者（計1名）																															
	演劇学科	FD CHAmmiT参加者（計1名）																															
	デザイン学科	FD CHAmmiT参加者（計1名）																															
大 学 院	造形芸術専攻	有志での回答書作成ミーティング参加者（計1名）																															

### 2 芸術学部から学生へのメッセージ

<p>令和6年度学生FD CHAmmiTに参加した皆さんには、芸術学部の改善に主体的かつ積極的に取り組んでいただき、改めて御礼申し上げます。今回の学部提案書の主な内容は、近年の学生FD CHAmmiTの学部提案書や、学内の各種アンケート調査等においても多数の要望を受けていた「他学科や他学部との授業交流、社会と繋がる授業」という内容に繋がる提案が中心となる結果でした。既に、芸術学部では多くの教職員が関わり、共通専門教育科目（各学科共通）として「連携型プロジェクトⅠ～Ⅲ」を開講しています。この科目はまさに8学科すべての学生が、自身の専門性を用いて社会の実課題の解決に取り組む科目で、専門領域を横断する側面と芸術の社会実装を兼ね備えた、学生の皆さんがまさに求めている科目です。学部提案書の内容からも本科目の注目度や必要性が改めて明確になりました。また、授業のみならず学生生活の面からも様々な人と交流する機会や新しい知識を求めていることから、現状に満足せず、新たな活動の場を創出することに邁進してまいります。</p> <p>その他の提案項目に関しても、十分に現状分析された内容が多く、また継続的に抱えている課題に対しての提案も成されており、これらを真剣に検討していく必要を感じています。今回の回答書作成には、学生FD CHAmmiT参加学生に大学院生、教職員を加え、現実的で実効性のある意見交換を行うことが出来ました。協議の場を通じて「日藝」は、「芸術分野の学修を通じて、多様な価値観を融合し、イノベティブな思考で課題を解決できることが大きな魅力」であることを共有することができ、学生と協働でより魅力的な日本大学芸術学部を創って行きたいと、教職員一同改めて強く感じています。</p>
--

### 3 学部提案書の対応について

#### 「学部に望む授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
<p>A：もっとオープンに情報を開く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・選ばれた人しか先生から声をかけられない。</li> <li>・誰にでも公平に情報を公開して欲しい。</li> </ul>	○			<p>「もっとオープンに情報を開く」については、特定の選ばれた学生のみ機会を得ることが可能で、教員との関係性次第ではその機会を得ることが出来ない、もしくはそのチャンスを増やしてほしいという要望と認識しております。大学を運営するうえで、授業・学外活動・サークルなどを含め意欲のある学生の皆さんの学修機会やチャンスの確保は当然必要なことであり、公平性という視点からも管理運営が必要と考えています。ただし、案件によって目的や意図が異なる点や、情報開示の時期など様々な配慮が必要になる可能性がありますので、一律全ての情報を公表しオープンな対応を強いることが難しいのが現状です。</p>

### 3 学部提案書の対応について

#### 「学部に見る授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
<p>B：日芸生だけの日芸オープンキャンパス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生向けではなく、在学生在が日芸のことを知る機会が欲しい。</li> <li>・他学科の体験ができる機会が欲しい。</li> </ul>			○	<p>日芸生が日芸（8学科）のことを知る機会としては、初年次に開講している全学共通教育科目の自主創造の基礎の中でのワークを通して、8学科を知って頂くことを行なっています。その他として、他学科公開科目を履修して頂くことも検討ください。また、芸術学部は毎年11月に日芸祭を実施していますが、日芸祭が日芸を知る為の役割を果たしていると認識していますので積極的に参加頂くことをお勧めします。</p> <p>更に、日芸生だけではなく芸術学部で働く教職員についても芸術学部を広く知ることにより魅力的なキャンパスに繋がると考えますので、そういった機会の創出も今後の課題と考えています。</p>
<p>C：ワークショップ形式の授業の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外部から講師を呼んで「香りと音楽・美術etc」などの実践形式の授業を増やして欲しい。</li> </ul>	○			<p>今回の要望にあたるワークショップ形式もしくは外部講師を招いての授業は既に各学科の特性に合わせて実施しています。「香りと音楽・美術」の様に異なる分野とのコラボレーションなどは芸術学部の各学科の専門性と社会を繋ぐことを目的とするものと想像します。芸術学部全体や、学科単位だけではなく各教員が創造的に実践することで時代に合わせた柔軟な授業が展開出来ると考えております。また、芸術学部のFD委員会ではFD活動の一環として、教職員を対象に毎年FD研修会を実施しており、今年度の第2回FD研修会にはデザイン学科の片桐先生よりワークショップ形式の授業の事例紹介と授業改善に対する効果をお話し頂きました。このような研修会を通して芸術学部の授業改善を進めておりますので、各学科の専門性や科目の特性、授業計画との親和性によってはワークショップ形式を導入する授業が増えるのではと考えております。</p>
<p>D：他学部や他学科と協力して授業を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科内で完結してしまうことが多いので他学科と交流出来る授業を増やして欲しい。</li> <li>・経済学部など他学部とタッグを組んで学ぶ授業が欲しい。</li> </ul>	○			<p>他学科との共同による授業として芸術学部では共通専門教育科目（各学科共通）として「連携型プロジェクトⅠ～Ⅲ」を開講しています。この科目は従前の学部提案書を受けて授業化を進めて来た科目であり、芸術プロジェクトをベースとした実践型・参加型の学習形態科目です。所属学科以外の学生や教員との連携により芸術活動に必要なコミュニケーション力や課題探求・解決力など総合的に学ぶことが可能です。学内だけではなく、企業・行政・地域社会との関わりを通して、社会との繋がりにより「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」能力を養うことが出来ます。他学部との共同授業については、ゼロではありませんが選択肢が少ないのが現状です。例えば、校舎間の距離や学部毎に時間割（始業時間や休み時間等）が異なり、物理的な互換性が無い場合が多いことも要因です。他学部や他学科との共同による授業ではありませんが、日本大学には日本大学の他学部の授業を履修することが出来る学部間相互履修の制度があります。この制度を利用することで芸術学部では触れることが出来ない分野も学ぶことが可能です。知見や交流を広げる選択肢のひとつとしてご検討ください。</p>

### 3 学部提案書の対応について

#### 「学部望む授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
E: とにかくいろんな学部学科との交流を増やしたい	○			各学科の設備に関しては、授業同様に取り扱いに関しても高度な専門性や管理監督を必要とする側面もあります。また、機材に関しては保有する学科の学生が授業課題等で使用する機会を保证する必要性もあることから、今すぐに貸出し状況を変えることは難しいです。ただし、同じ領域を持つ学科間では施設の相互利用の可能性は検討されており、かつ、先に回答した「連携型プロジェクト」では、学科間の施設設備・機材の活用が具体的に検討されています。
F: 実践できる機会がほしい	○			他学科との共同による授業として芸術学部では共通専門教育科目（各学科共通）として「連携型プロジェクトⅠ～Ⅲ」を開講しています。この科目は従前の学部提案書を受けて授業化を進めて来た科目であり、芸術プロジェクトをベースとした実践型・参加型の学習形態科目です。所属学科以外の学生や教員との連携により芸術活動に必要なコミュニケーション力や課題探求・解決力など総合的に学ぶことが可能です。学内だけではなく、企業・行政・地域社会との関わりを通して、社会との繋がりにより「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」能力を養うことが出来ます。他学部との共同授業については、ゼロではありませんが選択肢が少ないのが現状です。例えば、校舎間の距離や学部毎に時間割（始業時間や休み時間等）が異なり、物理的な互換性が無い場合が多いことも要因です。他学部や他学科との共同による授業ではありませんが、日本大学には日本大学の他学部の授業を履修することが出来る学部間相互履修の制度があります。この制度を利用することで芸術学部では触れることが出来ない分野も学ぶことが可能です。知見や交流を広げる選択肢のひとつとしてご検討ください。
G: 情報をオープンに。	○			学生の皆さんの学生生活や授業に関わる情報については現在、日藝ポータルサイトや芸術学部ホームページ、Google classroom、新年度のガイダンスサイト等で周知・情報共有しています。WEBやメール等で即時に情報が手に入る反面、大量の情報が届く中で、必要な情報を探し出したり、精査して活用しなくてはいけない点は、特に苦勞されていると認識しています。よりわかり易く情報をお届け出来る様に日々努め、今後も充実を図っていきます。
H: 履修期間中の第一週の授業を全員視聴可能なオンデマンドにして欲しい  ・ 授業を検討する際、時間割が重複した際に片方の科目に出られず、検討出来ないのが初回授業を動画で実施してほしい。	○			大学設置基準上、1単位の修得に必要な学習時間が45時間とされており、講義・演習・実習などの科目により算出方法が異なりますが、各担当教員は授業計画（シラバス）を作成し、科目の単位数に合わせ授業内容を事前に決定しています。その為、半期科目で15週、通年科目で30週の授業回で到達目標を達成できる様に設計されています。1週目の授業をオンデマンド形式で実施することは履修を検討するうえで利点がありますが、オンデマンド形式にすることで本来面接授業として実施するはずの授業で不利益も生じる可能性もあり、慎重に判断すべき内容です。また、履修科目を検討する為のシラバスについては予習・復習等を具体的に記載するなど改善を進めています。

3 学部提案書の対応について

「学部に見る授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
<p>I：他学部の授業を動画等で視聴可能にして欲しい</p> <p>・様々な学部の専門知識をつけて芸術領域を広げること に役立てたいため</p>			○	<p>学部間相互履修などを活用すれば現在でも他学部の授業を受講可能な科目もありますが、著作権や著作権等の公衆送信制度の課題もある為、多くは面接授業の形態をとっています。中にはメディア授業として開講している科目もありますが、本来面接授業として開講する科目を動画コンテンツとして作り上げ、大学の授業科目として成立させるには多くの工数と労力が必要となります。先に回答した共通専門教育科目（各学科共通）「連携型プロジェクトⅠ～Ⅲ」は芸術学部の専門性を活かしつつ、企業・行政・地域社会との関わりを通して、「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」能力を養うと同時に、芸術領域を広げる一助になろうかと思っておりますのでご検討ください。また、学部間相互履修については他学部の対象科目や履修方法など履修するにあたり登録方法などよりわかりやすく学生みなさんに情報を提示することが課題であり、履修しやすい環境を整えていきます。</p>
<p>J：他学科と協力できる授業を増やして欲しい</p> <p>・8つの学科が1つのキャンパスに集まっているという 特色を最大限に生かすために、1つの芸術を作り上げる 授業をして欲しい。</p>	○			<p>他学科との共同による授業として芸術学部では共通専門教育科目（各学科共通）として「連携型プロジェクトⅠ～Ⅲ」を開講しています。この科目は従前の学部提案書を受けて授業化を進めて来た科目であり、芸術プロジェクトをベースとした実践型・参加型の学習形態科目です。所属学科以外の学生や教員との連携により芸術活動に必要なコミュニケーション力や課題探求・解決力など総合的に学ぶことが可能です。学内だけではなく、企業・行政・地域社会との関わりを通して、社会との繋がりにより「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」能力を養うことが出来ます。他学部との共同授業については、ゼロではありませんが選択肢が少ないのが現状です。例えば、校舎間の距離や学部毎に時間割（始業時間や休み時間等）が異なり、物理的な互換性が無い場合が多いことも要因です。他学部や他学科との共同による授業ではありませんが、日本大学には日本大学の他学部の授業を履修することが出来る学部間相互履修の制度があります。この制度を利用することで芸術学部では触れることが出来ない分野も学ぶことが可能です。知見や交流を広げる選択肢のひとつとしてご検討ください。</p>
<p>K：芸術を通して制作したものをどう社会的に昇華するか学ぶ授業</p> <p>・自分の学んでいることがどの様に社会に活かせるかを知りたい</p>	○			<p>芸術学部の特性上、初年次には基礎技術や基礎知識など専門性の礎となる科目が設定されていることが多く、2年次以降は基礎の応用や成果物やスキルをどの様に活用するのかといった科目が徐々に増えます。専門科目以外の共通専門教育科目（各学科共通）として「連携型プロジェクトⅠ～Ⅲ」や芸術教養課程科目の芸術総合講座は学内外の実務者の方が講師を務め、社会との繋がりをもとにみなさんの芸術作品を昇華・活用するきっかけが得られる授業です。是非、受講してみてください。</p>
<p>L：各学科プロの方が一コマずつ講義する</p> <p>・オムニバス授業の数を増やして欲しい</p>	○			<p>オムニバス形式の授業は様々な学科で展開していますが、通常の科目に比べてオムニバス形式の科目の場合、講師の選定や授業計画の策定、担当教員が複数人になる事で成績評価の方法や基準の決定など様々な課題があります。各学科のプロがそれぞれの授業回を担当することで、他学科を知ることにも繋がり有意義な面もあると思っております。芸術学部で展開している共通専門教育科目（各学科共通）「連携型プロジェクトⅠ～Ⅲ」はまさに学科の垣根を越えた科目として位置付けしておりますので、履修も視野に検討してみてください。</p>

3 学部提案書の対応について

「学部に望む授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
<p>M：一年時の必修でグループワークを増やしてほしい</p> <p>・人脈を増やしコミュニケーション能力を高める機会が欲しい</p>			○	<p>グループワークや共同作業については「自主創造の基礎」や「日本を考える」を通して実践して頂いてますが、いずれも必修科目ではなく、履修を推奨する科目として設定しております。グループワークは基本的な知識や技能・コミュニケーション能力を高める為の効果的な方法ではありますが、中にはグループワークの際に特に緊張してしまう方や、言葉が出づらくなる方、その場に落ち着いて座ってられない方等、様々な配慮を要する学生さんが一定数いらっしゃいます。その為、必修科目とすることは様々な問題を含んでおり難しいのが現状です。また、必修となると必然的に受講者数が増える為、合わせて授業を行う教員も複数人必要となります。教職員の負担の増加にも繋がることから慎重に検討する必要があります。少し視点は変わりますが、大学生活の中で学生さん同士、学生さんと教員間のコミュニケーションはとても重要であると考えています。学生さん同士の関係性も構築だけではなく、大学から社会に出て活躍されるみなさんの為にも何らかの交流を創出することは課題と見据え今後検討を進めたいと思います。</p>
<p>N：芸術作品を制作するうえで業界の一般的な制作手順を教えてほしい</p> <p>・同一の科目名で複数のクラスがある場合、教員によって実習中に教える内容や方法が異なるため、統一して欲しい。</p> <p>・制作の幅が狭まることは理解したうえでそれが無いとはじめの一步が踏み出せないため</p>	○			<p>芸術学部で学ぶ学生の皆さんは学科やコース・専攻は違えど、誰もが「創作」という目的をもち日藝に集まっていることと思います。「創作」に繋がる科目には、理論的な学びや実践的な学びなどがあり、今回の提案書では特に「創作」のアウトプットに繋がる演習や実習科目についてのご意見でした。同一の科目名の科目は同じシラバスで開講している為、本来であれば同様の指導方法であるべきです。ただ、受講学生の理解度や作業の進捗など様々な要因により、画一のルールを設け授業を展開する事が難しいのも事実です。授業で気になる点や質問がある場合、ぜひ積極的に教員に質問してみてください。</p>
<p>O：最近のニュースなどを取り入れた現代との関りがわかりやすい授業</p> <p>・今の授業大勢だと現代とどの様な関りが在るか分からないため</p>	○			<p>芸術学部では企業・行政・地域社会との関わりを通して、社会との繋がりにより「自ら学ぶ」、「自ら考える」、「自ら道をひらく」能力を養うことを目的として、「日藝ならではの産官学連携プロジェクト」を掲げ、他学科との共同による授業として芸術学部では共通専門教育科目（各学科共通）「連携型プロジェクトⅠ～Ⅲ」を開講しています。この科目は従前の学部提案書を受けて授業化を進めて来た科目であり、芸術プロジェクトをベースとした実践型・参加型の学習形態科目です。所属学科以外の学生や教員との連携により芸術活動に必要なコミュニケーション力や課題探求・解決力など総合的に学ぶことが可能です。また、芸術教養課程科目の芸術総合講座は学内外の実務者の方が講師を務め、社会との繋がりをもとにみなさんの芸術作品を昇華・活用するきっかけが得られる授業です。是非、受講してみてください。</p>

3 学部提案書の対応について

「学部に見る授業」の提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
<p>P：遠方に取材できるよう学外へ機材を持ち出していいような授業</p> <p>・機材を外へ持ち出せると取材の幅が広がるため</p>	○			各学科の専門機材に関しては、取り扱いに高度な専門性や管理監督を必要とする側面もあります。また、機材の学外への持ち出しに関しては保有する学科の方針により異なりますので、まずは所属学科にご相談ください。
<p>Q：映画産業・フィルムコミッション・まちづくりなど関連して学べる授業</p> <p>自分の専門分野以外で関連することを学ぶことで専門にしていることに深みが出るから</p>	○			先に回答した専門科目以外の共通専門教育科目（各学科共通）「連携型プロジェクトⅠ～Ⅲ」や芸術教養課程科目の芸術総合講座は学内外の実務者の方が講師を務め、社会との繋がりをもとにみなさんの芸術作品を昇華・活用するきっかけが得られる授業です。更に、アートマネジメントに関する内容や、映像ビジネスなど様々な授業内容がありますので、是非受講してみてください。
<p>R：休暇期間にエレベーターが止まることについて</p> <p>・集中授業を受けている際にエレベーターが止まると機材運搬に悪影響を及ぼすため</p>	○			長期休暇期間中はエレベーターを含めて大学内の照明を制限するなど常に節電に努めています。節電中は使用禁止という訳ではなく、必要があればエレベーターを可動させることは可能です。授業を担当する教員もしくは所属学科から事務局に申請することで使用可能です。

※令和7年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。